

衆議院外務委員会ニュース

平成 30.5.18 第 196 回国会第 12 号

5 月 18 日（金）、第 12 回の委員会が開かれました。

1 環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定の締結について承認を求めるの件（条約第 11 号）

- ・河野外務大臣、堀井外務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・山川百合子君（立憲）、小熊慎司君（国民）、岡田克也君（無会）及び穀田恵二君（共産）が討論を行いました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもって承認すべきものと決しました。
（賛成一自民、公明、維新、希望 反対一立憲、国民、無会、共産）

（質疑者及び主な質疑内容）

中曽根康隆君（自民）

- ・「米国が一方的な核放棄を求めるなら米朝首脳会談に応じるか再考するしかない」とする金桂寛（キム・ゲグァン）北朝鮮第一外務次官の発言に対する政府の見解を伺いたい。
- ・米国から本協定の再交渉を求められた場合、政府としてどのように対応する方針であるか。
- ・本協定の一連の経済効果が生ずるまでにどの程度の期間を要し、当該期間において国内農業等に生じ得る打撃に対し、政府はどのような対策を講ずる方針であるか。

遠山清彦君（公明）

- ・政府は、日朝国交正常化の大前提と位置づけている拉致問題の早期解決について、具体的にどのような内容を指すものと考えているのか。
- ・TPPの中国及び韓国の加入について、我が国政府はどのような立場をとっているのか。
- ・APECに未参加であるコロンビアは、2006年のAPEC首脳会議で提唱されたアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）の基礎と位置付けられているTPPへの加入に意欲を示しているが、コロンビアのAPEC及びTPPへの参加に対する我が国政府の考え方について伺いたい。